

# 公の施設等評価及びあり方方針策定について(ダイジェスト版)

## 施設の概要及び利用実績等による実績評価

### 実績シート

#### 施設基本データ

##### 1. 施設の基本情報

・施設名称や所在地など、施設に関する基本的な項目

##### 2. 事業計画

・設置経緯、目的、これまでの運営経過等及び建設事業費(イニシャルコスト)

##### 3. 施設内容(施設・土地基礎データ)

・建物・土地基礎データ及び施設改修等に関する項目

##### 4. 使用料金体系

・施設の使用料金体系

#### 実績(数値)データ

##### 5. 施設の概要(競合施設リスト含む)

・建物単位(施設単位)だけでなく、部屋単位(機能単位)の概要

##### 6. 施設の利用状況

・建物単位(施設単位)の利用状況だけでなく、部屋単位ごとの月々の利用状況等

##### 7. 施設利用者の把握

・施設利用者について、部屋単位での利用者属性の把握

##### 8. 施設の利用状況の推移(年度実績)

・施設の利用状況(実績)が利用目標に到達できたかどうかを重点的に年度推移で確認

##### 9. 評価指標の設定

・施設利用を通じた市民に対するサービス提供が、どの程度有効に効率的に行っているか判断するためのものさし

##### 10. 人員配置状況等の把握

・施設に配置されている人員の状況

##### 11. 資源投入量

・施設の人員配置と、施設運営にかかるコスト(歳出)と収入(歳入)についての調査

##### 12. 満足度調査及び情報提供状況

・施設において、現在実施している満足度調査への取組状況、施設情報提供への取組状況の確認

## 施設のあり方見直しのための「点検」「評価」

### 点検シート

- ・項目
  - ・観点ごとに点検評価する上で必要な項目
- ・設問
  - ・“項目”を判断するに当たり、その内容の趣旨が分かり易くなるよう問いを細分化した設問
  - ・具体的な内容が記入されていない場合は、判定不能となり、「評価シート」の設問では最低評価となります。

### 評価シート

- ・項目
  - ・「点検シート」と同様の項目
- ・設問
  - ・「点検シート」の記入内容で評価します。
  - ・代替性、有効性については、評価結果によってフロー図の流れが決まります。
  - ・効率性、PR性については、評価結果が評価点となります。

## 「4つの観点」

### 代替性

・法令上の定め、現在の利用状況や専門性、施設機能などが、他に代わるものがなく、市民生活において必要性があるかを判断する観点

### 有効性

・設置目的に沿った利用がされているか、社会状況や利用者のニーズに沿った管理運営がされているかを施設データ等で検証し、施設の管理運営が利用目的に照らして、効率的かつ柔軟に行われているかを判断する観点

### 効率性

・施設の管理運営について、目標を設定し、客観的なデータを把握した上で、ランニングコスト及び、市民の利便性等に配慮した改善を行い、かつ中長期的な視野に立った施設管理運営ができているかを判断する観点

### PR性

・今治市の情報発信に貢献できているか、又はイメージアップに貢献できているかどうかによって加点される観点

## 総合評価

### 「観点別評価」

- ・代替性(フロー図)
- ・有効性(フロー図)
- ・効率性(評価点)
- ・PR性(評価点)

## 総合評価

○4つの観点別に評価を行い、その評価結果をもとに、観点ごとの重みの違いを反映させ、総合的な判断のもと、「総合評価」の判定をします。

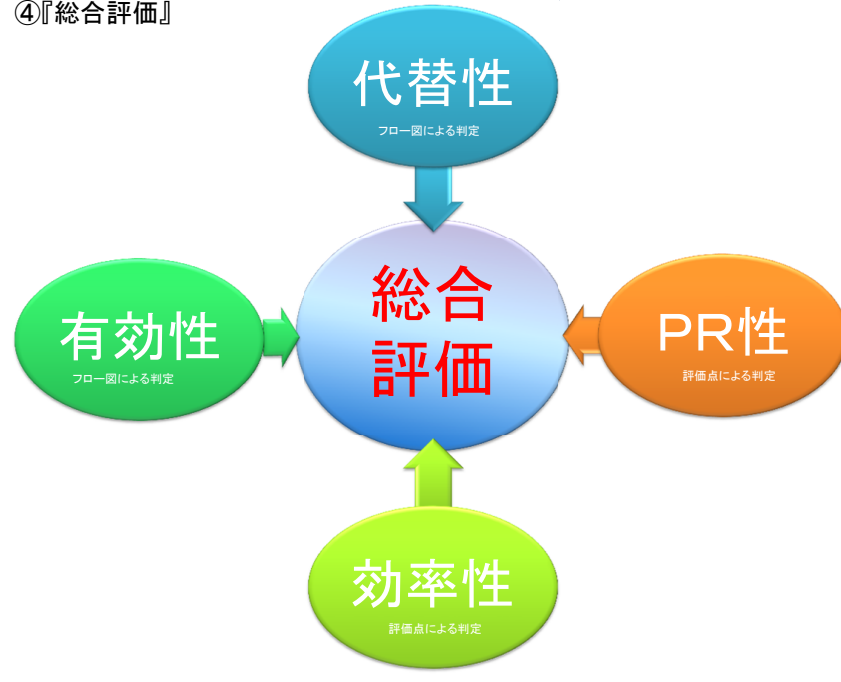
# 『公の施設等評価(評価シート)』の構成

①『施設の概要及び利用実績等による実績評価』【実績シート】

②『施設のあり方見直しのための「点検」「評価」』  
【点検シート】・【評価シート】

③『観点別評価』

④『総合評価』



○「公の施設等評価」の実施に当たっては、「実績シート」の内容を「4つの観点」において「点検・評価」を行います。その評価結果に基づき総合的に判定したのが『総合評価』です。

## 今後の方向性について

### 情報の収集

・「公の施設の評価」を実施するためには、『公の施設等評価(評価シート)』は、施設管理を有効に活用していく上で大変重要な情報になります。施設の配置状況、利用状況、職員配置や管理運営経費、老朽度、また施設の設置目的、性質等の違いなどによる「機能規制」や「構造規制」など、公の施設に関するあらゆる情報を的確かつ網羅的に把握する必要があります。

### 施設のあり方見直しの実行

・評価結果方針の実行と再生への取組  
・今後整理統合という評価結果になった施設であっても、市民と協働し合って施設の見直しに向けた取組にチャレンジできるような環境を確保したいと考えています。しかし、一定の期間を経過しても、なお現状より著しく状況の改善が図れない場合は、今回の評価に基づいた実行が必要です。

### 情報の活用

・集めた情報を基に、施設の効率的な運営や利用促進などの活性化、そして財政状況等を総合的に勘案し、長寿命化を図りながら継続していくのか、あるいは統廃合による集約化を目指していくのかといった方針を明確に定める必要があります。また、これらの情報については、施設管理運営において、更なる施設の有効的な管理運営を模索するツールとしても活用することが可能です。

### 市民と共に考えるための情報の公表

・市民の皆様へ施設情報を公表することにより、施設の有効活用に向けて、今後の施設のあり方を市民と一緒に考えていく契機にもしたいと考えています。